

BASE Vol.29

実践的基礎知識 分散投資編(4) <分散投資の効果>

2016/4/22

分散投資効果

投資の世界には「ハイリスク・ハイリターン、ローリスク・ローリターン」という言葉があります。この言葉がすべてではなく、リスクが高いにも関わらずリターンの低いものも市場には存在します。これまで分散投資編でご説明してきた関連の考えを使って、関連の低い資産同士を組み合わせる分散投資をした場合、リスクとリターンのバランスが良くなることが期待できます。

組み合わせ比率を変えた場合のリスク・リターンの変化

前回までのレポートで、分散投資を考える上では、相関係数で確認できる値動きの「向き」だけでなく、標準偏差で確認できる値動きの「大きさ」も併せて考えることが重要であることとご説明させていただきました。今回はその「向き」と「大きさ」のバランスを良くするにはどうしたら良いかを考えてみます。

図表1のグラフは日本国債と日本株式をそれぞれの数字の比率で組み合わせた場合のリスク・リターンを比較したものです。日本国債0:日本株式100は、日本株式100%つまり日本株式そのもの、日本国債50:日本株式50は、日本国債と日本株式を50%ずつ組み合わせたもの、ということです。日本国債と日本株式のリスク・リターンを比較すると、リスクの高い日本株式のほうがリターンが高く、リスクの低い日本国債のほうがリターンが低くなっています。

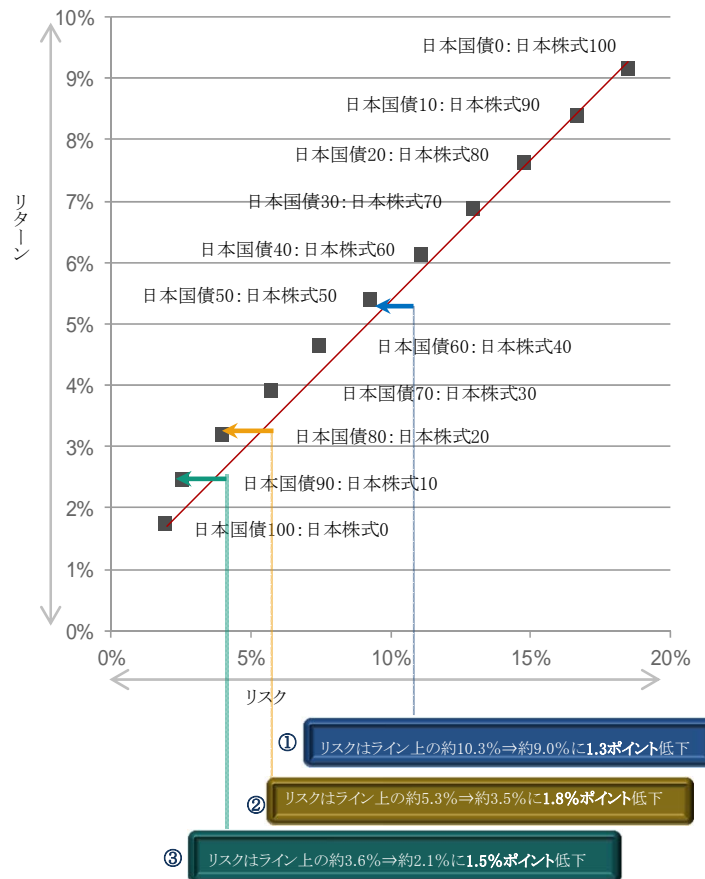
日本国債に日本株式を少しずつ足していき、日本株式の比率を高めていくと、リスク・リターンはどうなって推移していくか確認します。日本株式の比率が高くなるほどリスクは大きくなり、その分だけリターンも大きくなります。日本国債100%の時と日本株式100%の時を結んだ赤い線上にすべてのリスク・リターンが位置しそうなイメージですが、実際にはそうはなりません。矢印で示したように赤い線から左方向にシフトしています。例えば、①のリスクは1.3%ポイント低下、②のリスクは1.8%ポイント低下③のリスクは1.5%ポイント低下しております。これが分散投資によってリスクとリターンのバランスがよくなる効果です。

MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

図表1: 日本国債と日本株式の組み合わせ比率
変えた場合のリスク・リターンの変化
(期間: 2003年3月～2015年11月)



日本国債: シティ日本国債指数、日本株式: MSCI日本株価指数
出所: ブルームバーグのデータを使用し、ピクテ投信投資顧問作成
リターンは上記期間の累積リターンを年率換算
リスクは月次騰落率の標準偏差を年率換算して算出

分散投資効果の検証

もう少し詳しく見てみましょう。

リターンはリスクを取って得られるものです。よって取ったリスクに対して、どれだけのリターンを得られたか、という効果を考えます。とったリスクに対して得られたリターンをリターン÷リスクを計算して、リスクあたりのリターンにし比較してみます。

日本国債100%の場合は、リターンは1.7%リスクが2.0%で $1.7 \div 2.0 = 0.85$ です。日本国債90%日本株式10%の場合はリターンが2.5%でリスクが2.1%で $2.5 \div 2.1 = 1.19$ です。

つまりリスクあたりのリターンは日本国債100%の場合は0.85で日本国債90%の場合は1.19と、こちらのほうが取ったリスクに対しより多くのリターンが得られ、効率が良いということになります。この数値を全て見てみると日本国債90%の時が分散効率が良く最もリスクとリターンのバランスが良いということがわかります。

分散投資を効果的に行えばリスクに見合うリターンをバランスよく得ることが可能となります。

図表2 : 図表1 リスクとリターンの割合
(期間=2003年3月～2015年11月)

日本国債の割合(%)	日本株式の割合(%)	リターン	リスク	リターン ÷ リスク
100	0	1.7	2.0	0.85
90	10	2.5	2.1	1.19
80	20	3.2	3.5	0.91
70	30	3.9	5.3	0.73
60	40	4.7	7.1	0.66
50	50	5.4	9.0	0.6
40	60	6.2	10.9	0.56
30	70	7	12.8	0.54
20	80	7.7	14.7	0.52
10	90	8.5	16.6	0.51
0	100	9.3	18.5	0.5

データは過去の実績であり、**将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。**